

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
			○	

事務事業No 794 事業名 障害者相談員設置事業

分野別目標	2	個人を尊重し、人々がともに助け合う優しいまち
政策	2	高齢者・障害者支援の充実
施策	2	障害のある人の自立と社会参加の推進
基本方針	2	経済的自立への支援

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間		～	
事業実施の根拠法令			
関連個別計画	和歌山市障害者計画		
担当課・担当課長 (Tel)	障害者支援課	松村 維人	(内線 5 1 3)
関連課			

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		民生費	
	項		社会福祉費	
	目		障害者総合支援費	
	大事業		障害者総合支援事業	
事項		障害者相談員設置事業		

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする）ための事業か	事業内容				
	身体障害者及び知的障害者の福祉の向上に関し、本人、保護者からの相談に応じ、必要な指導又は助言を行うとともに、障害者地域活動の推進、関係機関の業務に対する協力及び障害者福祉について積極的に啓発・普及活動に関する業務を行うことにより、障害者の福祉の増進を図る。	身体障害者相談員及び知的障害者相談員を委託する。また研修会を開催する。				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		研修の開催 相談員の委託	研修の開催 相談員の委託	研修の開催 相談員の委託	研修の開催 相談員の委託	研修の開催 相談員の委託

2 事業コスト

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算	計画	決算
事業費	959	815	959		959		959		959	
伸び率 (%)	-	-	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	
人件費	常勤職員	2,302	2,302	2,302	2,302		2,302		2,302	
	非常勤職員	0	0	0	0		0		0	
	小計	2,302	2,302	2,302	2,302		2,302		2,302	
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他										
一般財源(税等)	959	815	959		959		959		959	
所要人数	常勤職員	0.31	0.31	0.31	0.31		0.31		0.31	
	非常勤職員	0.00	0.00	0.00	0.00		0		0	
主な予算内訳	報奨金									

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	研修実施回数	年度目標値			1	1	1	1	1
		実績値			1				
	単位	全体目標値			100.0%				
		全体目標達成度							
成果指標	身体障害者相談件数	年度目標値			1,350	1,000	1,000	1,000	1,000
		実績値			836				
	単位	全体目標値			61.9%				
		全体目標達成度							
知的障害者相談件数	年度目標値				65	65	65	65	65
		実績値			354				
	単位	全体目標値			544.6%				
		全体目標達成度							

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む		中長期的に取り組む	○ 緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	身体障害者及び知的障害者本人、保護者からの相談に応じ、必要な指導又は助言を行う事業であり、障害者の福祉の増進を図る意味でも重要である。
「見直し」 「改善」案	現状のまま維持継続